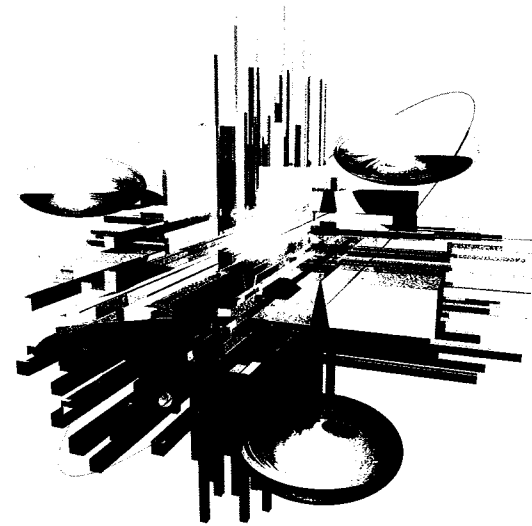


重要用語 300 の基礎知識 ⑬

国際理解

重要用語300の 基礎知識

大津和子 溝上 泰 編集



明治図書

② アメリカの多文化教育

多文化教育の実践には多様な理解と展開があるが、その共通認識は、「人間はみんな違う。その個性は、優劣のつけられない平等にかけがえのないもの。時には個性はぶつかり合う。だからお互いの違いに対して尊敬をもって接し、みんなと一緒に生きていける方法を探そう」という点にあり、「公平」と「相互的な尊敬」がキーワードである。

保守的な地域においても実践されている「多文化教育」の代表格は、「世界のお祭り学習」である。その一方で、アメリカ国内の人々の多様性を強調し、平等と共生の方法を教える「偏見をなくすための多文化カリキュラム」がある。

例えば、「お祭り学習」では、中国の旧正月の頃に中国式の凧を作り、中華料理をおはしで食べる。「偏見をなくすカリキュラム」は、このような異文化体験だけでは、単なる「外国」学習に陥る危険性があると批判する。クリスマスが「お祭り」として学習されないのは、それがアメリカの「主流文化」であるからで、個々の民族行事を一時的に楽しむだけでは、子どものもつ「アメリカ文化＝白人文化」という偏見は是正されないと主張する。そして、あくまでもアメリカ人である中国系アメリカ人の文化が、イギリス系やユダヤ系の文化と同様に、公平に、「アメリカというサラダの中の一つ」として存在していることを認識させる学習活動を提唱する。

学校における暴力事件が増加する中

で、多文化教育は、日常生活レベルでの「異なる他者」への偏見や不寛容をなくすための「人権教育」としても重視されている。多文化の文化概念には、性別、年齢、身体の状態、社会階層、ニューカマー、人種、宗教、セクシュアリティなど、個人の様々な「違い」も含まれ、それらの「違い」によって他者をおそれたり、憎んだり、差別したりすることを許容しない人間の育成を目指す。

幼児教育から大学教育まで、人間の諸能力の発達段階にあわせて様々な学習活動が考慮され実践されている。幼児をもつ親のためには家庭教育のクラスもあり、新しい移民の人々には英語教室も無料で、地域センターなどで実施される。

学習方法は、「人間は平等だ」と観念的に暗記させる知識伝授型ではなく、生徒たちが自ら体得できるように参加型学習と、社会的共生のために不可欠である、暴力によらないコミュニケーション能力を養うグループ学習が中心とされる。また、自分の疑問点を明確にし、それを解決するために必要な情報検索の技術を学び、情報を選択し、考察して、問題を解決し、必要ならば人とともに行動するという、情報技術や行動力をもった民主主義社会を發展させる市民を育てる市民教育も含んでいる。

＜参考文献＞横田啓子『アメリカの多文化教育—共生を育む学校と地域』明石書店、1995。

(横田啓子)